

財団法人 8020 推進財団
平成 21 年度 歯科保健活動助成金交付事業報告書抄録

1. 事業名：大村市、東彼杵郡 医科歯科連携ネットワーク事業

2. 申請者名：大村東彼杵歯科医師会 会長 峰 正英

3. 実施組織：(実施主体) 大村東彼杵歯科医師会、**(協力団体)** 長崎県歯科衛生士会、大村市医師会、大村市介護支援専門員連絡協議会、大村市在宅ケアセミナー、長崎県歯科医師会

4. 事業の概要

現在、回復期病棟や在宅において専門的口腔ケアや訪問歯科診療が認知され十分に提供されているとは言いがたい。平成 21 年度に回復期病棟での専門的口腔ケアや訪問歯科診療の普及を目指して厚生労働省の事業を実施した。歯科アセスメントから口腔清掃や義歯使用の必要性、専門的口腔ケアの周知を図る必要性が分かった。その結果を基に今回は通所介護を利用している在宅療養中の患者に対し歯科アセスメントを実施し、事業所、本人、家族及び介護職員に口腔の状況を分かりやすく報告した。また今回、多職種と円滑に連携を図るため地区別に担当者を決めシステムを構築した。さらに、専門的口腔ケアの周知と積極的な導入を図る目的で、患者家族向けの分かり易い説明ツールを作成した。これらは、今後の医科歯科連携ネットワークの更なる発展の基盤となり得るものである。

5. 事業の内容

大村市で通所介護サービスを行っている北部地区の 1 事業所で 13 名、中部地区の 2 事業所で 36 名、南部地区の 1 事業所で 9 名の計 58 名に。また同じ歯科医師会内の東彼杵町で 7 名、波佐見町で 8 名、川棚町で 5 名を対象に長崎県歯科衛生士会に依頼し、口腔清掃、歯肉粘膜、口臭、口腔乾燥、義歯の状態、食事、原疾患、寝たきり度、認知症、口腔機能に対して歯科アセスメントを実施した。また「歯と全身の関係」「専門的口腔ケアの効果 (データ集)」「誤嚥性肺炎」「口から食べることの素晴らしさ」「口腔周囲筋の運動」「窒息の予防」「摂食・嚥下」の内容で専門的口腔ケア説明用ツール「口から始める健康づくり」を作成し回復期病棟、介護支援専門員連絡協議会、通所介護サービス事業者連絡協議会、グループホーム協議会へ配布した。

6. 実施後の評価 (今後の課題)

対象に関しては、前回平成 21 年度に行った回復期病棟でのアセスメント (以下 前回) では脳血管障害が約 47%であったが今回は約 26%であった。清掃を行う回数や自立している割合が前回よりやや多かったが、その中で口腔清掃状態が良好と評価されたものは 57%、やや不良と不良で 35%であった。歯肉の出血や腫脹、口臭、口腔乾燥は著しく少なかった。しかし舌苔に関しては付着が多い傾向にあった。義歯に関しては問題があるものが少なかった。また食欲が良好なものが前回より約 2 倍多かったが摂食嚥下に問題があるものが介護職員のアンケートで約 30%いた。その内容はむせるが 43%、他に食べこぼす、時間がかかることであった。今回の事業では、通常歯科への要望が少ない在宅高齢者に対し、身体や日頃の生活の状況を把握しているケアマネージャーや通所介護サービス事業所の職員を介してアセスメントをした結果、比較的多くの口腔の問題が見いだされた。前回よりもネットワークの範囲が拡大した事を実感しているが、さらに介護予防の観点からも今後の在宅高齢者への歯科的な介入の必要性が示唆された。

今後の課題としては事業報告研修会の実施、脳卒中連携パス作業部会への参画、県央地域リハビリテーション広域支援センター内への口腔機能向上部会の設置、デンタルネットの構築、運営等が必要と思われる。そしてこれらのネットワークが効率よく機能することにより、対象者に対して迅速かつ的確な医療や介護が提供できるようになる事を期待したい。